



2022年（令和4年）4月20日発行

第439号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 岩本 幸子

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

電話 (0773) 46-0101

ファクス (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

梅の木寮のリモート面会 ～会えないけれど私たち元気です！～

さっき買い物に行ってきたね…



コロナ禍で外出ができなかったり、ご家族や友人と面会ができない日が続いています。「高齢の両親がリモートのこと理解できるだろうか」「テレビの様な感覚で反応してもらえないのでは」など不安の声もありましたが、今では定期的にリモート面会のご連絡をいただくことも増えてきています。

お誕生日おめでとう！



離れていても安心して 家族とつながる施設に



お姉さん
久しぶり！



お姉さんリモート面会

Aさんはこの間、持病の悪化もあり、入退院を繰り返して、体も徐々に弱ってこれていました。お姉さんは認知症があり、他施設に入所されており、お互いに外出して面会することは難しい状況です。『高齢の

お二人がお話しができない可能性もありましたが、顔を見るだけでもお互い元気を分け合えるのではないかと、お姉さんが入所されている施設とリモート面会を試みしました。生活の場所が離れ、久しぶりにお互いの顔を見たのですがやはり姉妹。会話が弾み、とても楽しい時間を一緒に過ごされました。しかし残念ながらAさんはお姉さんと話をされた数日後に永眠され、最初で最後のリモート面会となりました。

「ターミナルケア」

この状況下、いこいの村でターミナル期（人生の終末期）を迎えられる生活者がおられます。

♡Kさんの思いを支える

Kさんは、お元気な時は「家に帰りたい。帰ったら、ヘルパーに来てもらって自分で生活できる」と、玄関へ行き、迎えを待たれていました。Kさんの願いは、家族と共に過ごした家に帰ること。自由に動けなくなられてからも、家の事を気にされていました。その願いを叶えたいと、感染対策を万全にとり、ご家族の協力を得て自宅に帰られました。

ショートステイ



梅の木寮のショートステイをご利用される方のご家族に、前日に電話で問い合わせをさせて頂いています。

発熱はされていないか、咳や鼻水喉の痛み等風邪のような症状等ないか、同居されているご家族にも失礼な事と思いつながら毎回聞きとりをさせて頂いています。ご家族も「出かけないようになっています」「気を付けています」

車椅子で自宅に上がり、家中をじっと見ておられる穏やかな顔が印象的でした。

その後も、ご家族には、事前に面会時間をお知らせいただいた上で、面会をしていただきました。子供さんやお孫さんが交替で足を運んでくださり、Kさんもご家族の顔を見て安心され、最期の時を穏やかにすごされました。

♡家族と会いたかったOさん

がんを患われたOさんは、治療の限界を迎え、ご家族との面会目的で梅の木寮に戻られました。Oさんの願いは「孫たちと旅行がしたい」。お孫さん含めた、ご家族の皆さんに抗原検査をしていただき、面会。お孫さん達や娘さんに囲まれ、賑やかで和やかな時間を過ごされました。最期は娘さんに見守られ穏やかに息

す」とコロナを自宅に持ち込まないよう心掛けていただいています。

ショートステイでも、早くからリビングに機器を置くなどして除菌を徹底し、レクリエーションを楽しんで頂いています。「歌が唄いたい」と、歌謡集を見ながら唄っておられますが、声は少し小さめで遠慮がちです。一日も早く、心晴れやかな日が来るようにと思わない日はありません。

を引き取られました。

コロナ禍でも、生活者の人生の締めくくりの時間を、できる限り生活者ご本人とご家族に、大切にしたいのだと思います。そして、私たちも、第二の家族として寄り添い、少しでも楽に穏やかに過ごしていただけるよう日常の支援をさせていただきます。



施設内を通らず外窓から居室へご案内し、ご家族水入らすの時間を過ごしていただきました。

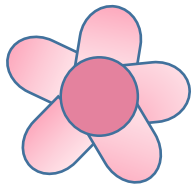
梅の木寮

前川 裕紀
森下 教子
佐藤 香



初めての入浴介助で私はとても緊張していたのですが、シャワーで身体を温めていたり、湯船につかっている時に、いつもは、粗目な声を出される事があるのですが、ご機嫌なご様子で、いつも聞く声とは違った新しい面を見ることができて嬉しかったです。

新人生活援助員



(大阪からこられた 聴覚障害の方)

入浴の順番をお待ちになっておられる間、パソコンで大阪の方が手話で話されている動画を、細い目でずっと見ておられた。

入浴の順番になり、「お風呂に行きますか、動画をまだ見たいですか」と話しかけると、目でパソコンの方を見て答えて下さる。普段表情があまり変わる事がなく、答えとして返答していただける事がなかなかない方なのですが、自分の意志を表示して下さい嬉しく思いました。

生活援助員



「あ！あなた〇〇さんよね？」と職員の名前を呼んで下さった。「本を持って来たの、ちょっと待ってて」と紙袋を持って戻って来られた。先月ご利用の際、本の話で盛り上がった事を覚えてもらえていたことも嬉しかったのですが、「貸してあげよう」と思って下さった事。そして忘れずに持って来られたこの様なやりとりは初めての事だったので、とても感動しました。これからも些細な日常の会話も大切にしていきたいなと思う出来事でした。

生活援助員



40周年を迎えます

所長エッセイ



いこいの村
所長
岩本 幸子

1982年5月9日、五月晴の日曜日、2,000人にもものぼる参加者に見守られる中、いこいの村が開所しました。

今年は、栗の木寮開所から40周年、梅の木寮・綾部東部デイサービスセンター等の開所から30周年を迎えます。

いこいの村は、京都の聴覚障害者とその関係者の「働く場も奪われた重複重度障害の仲間の授産場をつくろう」「老後、安心して過ごせる老人ホームを建てよう」との願いから築かれた施設です。カンパ活動等、建設運動に直接かかわってくださった方は3,500人と言われています。さらに全国の数多くの方にもご支援をいただきました。

それから40年。地元綾部東部地域や全国の関係者の皆様に支えていただいて、今日のいこいの村があることに感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍で制限がある中ですが、10月には「40周年記念事業」開催を予定しています。地域の皆様とともに40年のあゆみを振りかえり、今後も皆様と手をつなぎ、地域の福祉の向上をめざしていくことを心に刻む機会とさせていただきます。

大切な節目の年。いこいの村は総勢17⁵人の職員体制でスタートを切りました。

本年度も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

1977年（昭和52年） いこいの村建設運動の始まり



⇒いこいの村建設運動の様子

※写真提供：元舞鶴市役所 園田日出雄様

昭和47年から綾部市、次いで舞鶴市に手話通訳者が設置され、派遣事業活動が進む中でろう者の実情が明らかになってきました。それは未就学のまま社会とつながることが出来なかった人々が大勢いたという実情です。当時ろう重複障害者を受け止める施設はほとんど無く、精神病院に何十年も入らざるをえなかった人もおられました。

そのような人々を受け止めて、「人らしく」生きられる場所が必要でした。建設運動当時、障害者の入所施設というと、保護という名目での収容施設というイメージを持たれていました。しかし、いこいの村が目指したのは、地域共同体へと開かれて、社会の中で一人一人が自らの役割を見つけて自分が人生の「主人公」になれる場所でした。

このような思いから、昭和52年全国初のろう重複障害者の入所施設設立を目指して、建設運動はスタートしていきました。（栗の木寮 梶野なつみ）

1977年（昭和52年）

待ちに待った私たちの拠点～丹後事務所開所～



京丹後市聴覚言語障害センターはろうあセンター丹後事務所として開所。

当時は峰山共同作業所内で机一つからスタートしました。2度の移転を経て現在地へ。地域活動支援センターも併設され、地域のろう者や難聴者が集っています。

開所前、ろうあ協会丹後支部の皆さんは、自分たちの日常生活上の切実な問題を出し合い、要求を整理しました。そして、運動をどう進めるのかを学ぶため、京都の各地で頑張っている仲間の様子や行政への交渉の様子をビデオで観るなど、手話サークル、関係団体の人たちも一緒になって学習を積み重ねました。

そして丹後地域にも手話通訳者を配置してほしいと会員と共に各町にお願いに回りました。当時の六町町長会が会員の切実な声に真剣に耳を傾けて要求実現に向けて共に取り組んでいただいたこともあり、昭和52年に手話通訳者1名が配置されたのでした。

（京丹後市聴覚言語障害センター 金子泰治）

1982年（昭和57年）

与謝郡手話通訳事務所設置へ

開所の源になったのは、あるろうあ者の「地域に専任の手話通訳者が必要」「もっと手話を通じる地域にしなければ」との強い思いです。伝えたいことがあっても、不就学のろうあ者には手紙も電話もままならず、起伏の激しい70kmの道程を、自転車で往復6時間かけて家に行き伝えられていました。

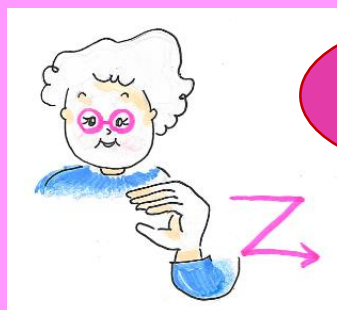
昭和52年、与謝郡で初めて手話教室が開催され、その参加者を中心に手話サークル「よつば」が結成されました。こうした手話の普及活動と同時に通訳者の設置を呼び掛ける活動も継続し、行政への説明や要望を繰返してこられました。サークル員や、理解ある多くの方々の協力のもと、昭和57年、ようやく手話通訳事務所設置が実現しました。与謝郡4町と京都府に支えられたこの様な郡部での事務所設置は珍しく、その名は全国に広まりました。

（与謝郡聴覚障害センター 高見典子）

開所5年目に「与謝郡聴覚言語障害センター」と改称。現在では「宮津与謝聴覚言語障害者地域活動支援センター」として、生活支援事業も実施しています。



願ひかなって開所！



左手を軽く曲げて
Zになるよう動かす

みんなの 手話

ZOOM (ズーム)

(絵)
梅の木寮
松下 智子

いこいの村聴覚言語障害センター開所40周年記念祭 開催のお知らせ

日時：2022（令和4）年10月16日（日）

13:30～16:00

会場：中丹文化会館（綾部市）

内容：式典・記念講演会の予定

※コロナウイルス感染拡大の状況によって、

内容の変更またはやむなく中止とする可能性があります。

できない事から できる事を生み出す



聴覚と視覚に障害を持つ山口和男さん（73歳）が手の感触を頼りに練り上げた陶器は、山口さんらしい味わいのある作品になりました。

栗の木寮で40年暮らしてこられた山口さんは、去年の10月頃から陶芸教室に通い始めました。最初は土を延々と手でこねるだけだったのが、年明けには一つの作品を作り上げられるまでになりました。作品は栗の木寮の玄関に展示されています。

普段の山口さんは入浴や洗濯など身の回りの多くの事を自分でする力をお持ちです。また日中の木工作業では、紙やすりで木材を驚くほどすべすべに磨くことができます。

一方で内面の思いを表現される言葉が少なく、手のひらに文字を書く事で情報を理解することはできますが、一方的な情報の投げかけになってしまう事も少なくありません。栗の木寮では何とか思いを引き出そうと、様々な働きかけを試みてきました。

人として生きる力の 素晴らしさと可能性を体現

山口さんの目が見えないからこそ培われてきた「生きる力」を自己表現へと繋げて欲しい…。そんな思いがきっかけとなりました。

実現にあたり、栗の木寮の臨時職員であり、造形作家でもある松浦司さんに協力をお願いしました。松浦さんは『陶芸作品を通じて山口さんの想いや意思を表現する事ができれば…』と仰います。できる限りありのままの表現を引き出そうと、完成のイメージを伝えずに作ってもらったのですが、やはり最初は戸惑っておられました。しかし土を捏ねる、丸める、くつつける…といった動きを身につけられたのです。

松浦さんから手の平書きで陶芸を教わる山口さん

仲間が自分を表現できる環境を 拡げたい！

ある日のこと、山口さんと積み木遊びをしていた時のことです。山口さんは積み木の形をひとつひとつ丁寧に手の感覚で確認して、慎重に積み上げていきました。それは見えている私よりも遥かに丁寧で安定した積み方でした。私は心のどこかで盲ろう者の山口さんには難しいだろうと思っていたのですが、しかし結果は私の方が積み上げられなかったのです。

山口さんと接する過程で仲間にとってできないのは障害だけが原因ではなく、取り巻く環境や、安易な決めつけも大きな要因だと感じました。今、栗の木寮では仲間が一日、活動的に過ごせる様な取り組みを行おうと職員みんなで試行錯誤しています。山口さんだけでなく、他の仲間に対してももっと自分を表現できる環境作りを拡げていきたいと思っています。（栗の木寮 田中正敏）



月2回の陶芸教室が楽しみになりました！



在宅生活を続けられるように



訪問介護とは

訪問介護とは、自分や家族だけで日常生活を送ることが難しくなった方に対して、ヘルパーが自宅に訪問し、入浴、排泄、食事の介護、掃除、洗濯、調理の補助などの日常生活上のお世話をを行うサービスです。訪問介護を利用できるのは、介護保険を申請し、要支援・要介護と認定された方です。

訪問介護のサービス内容

訪問介護には生活援助と身体介護と2種類があります。生活援助とは、日常生活の援助であり、本人に代わり身の回りのお世話を中心とするサービスです。調理、掃除、洗濯、衣類の整理、生活必需品の買い物、薬の受け取りなどを行います。

身体介護とは、利用者の身体に直接接触して行われるサービスです。食事介助、衣服の着替え援助、入浴介助、トイレ誘導やオムツ交換、排泄介助など利用者の体に直接触れて支援を行います。

訪問介護は、自立を支援することが目的で、ヘルパーが訪問することでできるようにするのが基本です。家政婦さんやお手伝いさんとは異なるため、ヘルパーが全て支援するのではなく、できることできないことを見極め、助言・支援を行います。



「昼ご飯は何にしましょうか」

在宅生活を続けるために

高齢になり、自分の力だけで生活することが難しくなったとしても、最後まで住み慣れた場所で生活したいと多くの方が望んでおられることだと思えます。在宅生活を望んでおられるのなら、少しでも長く続けられるように、お手伝いができたらと思っています。

ヘルパーが訪問すると色々な話や相談を受けることもあります。お話を聞く中で「ヘルパーさんに来てもらったら元氣になったわ、助かった」と言っていたことがあり、ヘルパーも嬉しく思っています。また利用者から、その土地の風習や、昔ながらの料理法など教えてもらうこともあり、とても勉強になっています。

ヘルパーを利用したいと思われた時は、ぜひご相談ください。

(高齢福祉部)

ホームヘルプ課

寺尾智子

介護のワンポイント

お悩み相談室

認知症の母を介護しています。

同じことを何度も聞かれるので、困ります。「おつきやうたでしゅ」と怒ってしまっているようです。

こんな場面はありませんか？

① 明日、墓参りに行かんなん

② 納税に行かんなん

〈お母さまの思い〉
不安
知りたい
気になる

ご回答

繰り返しの質問は、お母さまが最も知りたいことであるため、丁寧にやり取りすることが一番大切です。いい加減に返事をする、かえって不安が大きくなることもあります。

右の場面①②の対応の一例として、

①墓参りの予定がないにも関わらず、何度も言われるなら「明日朝6時に居間に集合ね。詳しいことは明日伝えますね。明日で間に合いますから、大丈夫」と伝えてみるのはどうでしょうか。

②「納税は〇〇が払っています」と、お母さまが何度も確認できるよう、紙に書いて伝えるのも一つの方法です。

つまり、お母さまが安心されれば、訴えは必ず減ります。根気があるかもしれません。介護する方が少しでも気が楽になりますように、いいこの村へお気軽にご相談ください。

〈電話〉0773-4610155

(デイサービス課 谷垣律子)

◆ご寄付 ありがとうございます◆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1月1日～3月31日受付分（順不同）

株式会社 西村 和美	様	京都市南区	J-ヒ-詰め合わせ
福井 善男	様	舞鶴市	35,000円
夢窓幼稚園	様	京都市右京区	25,000円
帆風 佳子	様	綾部市宮代町	200,000円



◆後援会 ご入会・ご継続 ありがとうございます◆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1月1日～3月31日受付分（順不同）

通山 みよ子	様	綾部市睦寄町	継続
酒井 勝美	様	綾部市老富町	継続
栗谷 エツ子	様	綾部市五津合町	継続
福井 富久子	様	綾部市睦合町	新規
宇都宮 末子	様	綾部市睦寄町	継続
引原 信枝	様	綾部市睦寄町	継続
温井 好江	様	綾部市睦寄町	継続
栗谷 須磨子	様	綾部市五津合町	継続
家本 健一	様	綾部市老富町	継続
家本 ミユキ	様	綾部市老富町	継続

～認知症安心サポート窓口～

- ・6月15日(水)
- ・7月20日(水)
- ・8月17日(水)

午後から



〈お問合せ先〉とくらの家

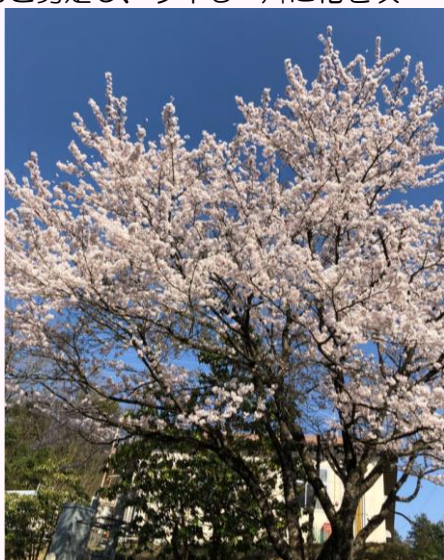
電話・ファクス：0773-46-0771

いこいの村に春が来た

今年は雪の多い冬となりました。

梅の木の花が、雪の重みで折れてしまい、梅の花は咲くだろうかと気をもんでおりました。栗の木で折れた枝をきちんと剪定し、今年も一斉に花を咲かせてくれました。

いこいの村はこれからいちよう紅葉等の木々が美しい季節を迎えます。コロナが収まったらぜひお越しください。



（総務課
森田 和華子）

❀いこいの村の桜❀

◆ボランティア ありがとうございます◆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2021年度（順不同）

華道講座（お花サークル）	羽室 萬喜代	様
書道講座（書道サークル）	岡村 とし子	様
3B体操	長岡 夕岐子	様
理容ボランティア	土肥 雅次	様
	土肥 眞利子	様
和太鼓ワークショップ	蒲原 敏光	様
けん玉ワークショップ	柳川 聡	様
アロマテラピー	今井 久美子	様
紙芝居絵本の読み聞かせ	石川 しのぶ	様
	山口 みつよ	様
バルーンアート	四方 さおり	様
わくわく親子劇場	石川 しのぶ	様

職員募集!

「一緒に働きませんか？」

※職種

介護職員(特養)、調理員、送迎員、
ケアマネジャー、訪問介護員、看護職員

☆勤務時間相談に応じます

☆慣れていただくまで丁寧に指導します
お気軽に見学に来てくださいね♪



<お問い合わせ窓口>

いこいの村聴覚言語障害センター

電話（0773）46-0101

ファクス（0773）46-0610（担当：今西 和弘）

詳しくは、

社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会HP
もご覧ください

いこいの村の「知りたい」が見つかる!?

<ホームページ>

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi/>

いこいの村聴覚言語障害センター

検索

または
QRコード



で検索してみてくださいね♪

CLICK!!





今年度新規採用職員

よろしくお願いします

①趣味
②抱負

①料理

② 皆さんがおいしい
言ってる料理を
作る。いつか
全かぞ!

給食課
宮田皇希

①ドライウ

② 住み慣れた家で
自給自足くらい
いただけたら
いいな。

梅の木寮
中村円香

①断捨離

② 身心共に健康で
生活する健康面を
サポートしたい

ホームヘルプ課
小寺由香

梅の木寮 医務課
田中寿子

梅の木寮
藤木ちひろ

① 写真、YouTubeを見る
② いろんなことに興味をもつ
楽しんで生活する。

①音楽、映画

② 一生懸命がんばる。
よろしくお願いします。

①読書、漫画

② 全てを楽しめる!

栗の木寮
中村菜央

高齢者の方にも
おすすめ
やさしい献立
Vol.20

アスパラの卵サラダ



材料(2人分)

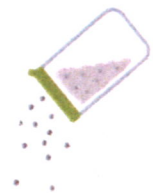
- ・アスパラ 2本
- ・卵 2個

☆調味料

- ・マヨネーズ 大3
- ・塩コショウ 少々
- ・粒マスタード 小1

作り方

- ① アスパラは根本の固い所は切り落とし
ななめに切り、レンジで加熱する。
(500Wで1~2分くらい)
- ② ゆで卵を作り、大きめに切る。
- ③ 冷めたアスパラとゆで卵に
調味料を全部入れて味を
調えたら完成!



アスパラガスに含まれるβカロテンは体内に入るとビタミンAに変換されます。ビタミンAは肌や目などの粘膜の健康を維持してくれ、空気と一緒に吸い込んだウィルスなどから体を守ってくれる働きがあります。

知識